

# 三田祭実行委員会 運営方針

2021/03/06

文責：委員長 清水勝輝

## はじめに

本文書では、第 62 回三田祭前夜祭を受けて、組織内で取った対応と今後の運営方針に関してまとめます。それに伴い、第 62 回三田祭前夜祭の概要を以下に記載します。第 62 回三田祭前夜祭の詳細に関しては、全塾協議会の監査報告において詳しく記載されております。以下に URL を記載しますので、必要に応じてそちらをご覧ください。

【全塾協議会サイト URL】三田祭実行委員会に関する報告

<https://keio-zenkyo.net/activities/>

## 第 62 回三田祭前夜祭の概要

例年三田祭実行委員会では、前夜祭の開催においては、三田祭実行委員会の前夜祭独自財源会計からの支出とチケット収入により収益で収支を合わせている。しかし、第 62 回においては、オンライン開催においてチケットの売れ行きが悪く収入の減少により大幅な赤字会計となり、その額は約 2300 万円になった。その補填を三田祭実行委員会の前夜祭・本祭の独自財源会計で行ったことにより、前夜祭会計の繰越金は、約 1100 万円から 1000 円に、三田祭本祭会計の繰越金は約 2300 万円から約 800 万円に減少した。（詳細な額に関しては、全塾協議会の監査報告に記載あり）

次ページ以降にて、本件の原因等について記載をする。

※

三田祭本祭の独自財源会計とは・・・

主として、三田祭実行委員会の渉外局が企業協賛等で獲得した協賛金の貯蓄分

三田祭前夜祭の独自財源会計とは・・・

過去の前夜祭のチケット収入の貯蓄分

## 第 62 回三田祭運営に関する問題点

第 62 回前夜祭を受け、組織内で感じた問題点を 3 つのカテゴリーに大別して以下に列挙する。それぞれの詳細については、次ページ以降にて記載する。

A. 前夜祭運営に関して

B. 執行部体制とその運営に関して

C. 委員会内の情報共有に関して

## 第 63 回三田祭運営における財務方針

第 63 回における、財務方針を 2 つのカテゴリーに大別して以下に列挙する。それぞれの詳細については、p.7 以降に記載する。

D. 第 63 回三田祭実行委員会における収入計画

E. 第 63 回三田祭実行委員会における支出計画

## A.前夜祭運営に関して

### [問題点]

前夜祭の決定に関わる役職が前夜祭担当と財務の二職にのみになっていた



三田祭全体に関わる大規模な企画にも関わらず、明確な判断基準が存在せず、決定に関わるのがその執行代の前夜祭担当・財務の二職のみであるため、第62回においては、その二職の主観に近い判断になってしまっていた。

### ※以上の問題点を受け、組織内で取った対応

次年度以降の前夜祭の開催には、より確実なリスクマネジメントや企画効果の担保をするために執行部全員の承認を必要とする**前夜祭採決**を実施する。

### 【前夜祭採決について（予定）】

#### 概要

より確実なリスクマネジメントや企画効果の担保をするために、執行部及び補佐による前夜祭採決を行う。決議権は執行部が持ち、協議には執行部・補佐が参加する。前夜祭採決の通過をもって前夜祭担当は企画の実行に移ることができる。

#### 採決時期

今後前夜祭担当が企画の立案をしていく上で、適切な時期を確定する

#### 判断基準

- ① 予算規模は妥当であるか（予算上限の設定）
  - ② 企画内容が企画意義・効果に対しての手段として妥当であるか
  - ③ 運営スケジュールは妥当であるか
- 等

## B. 執行部体制とその運営に関して

### [問題点]

執行部の定義とそれぞれの役割が曖昧になっていた



三田祭実行委員会において中核を担う執行部体制の曖昧さが、三田祭運営における意思決定や様々な場面での問題につながっていた。

※以上の問題点を受け、組織内で取った対応

執行部の再定義を行い、それぞれの役割の見直しをした。さらにその中で、前夜祭担当の執行部における役割は無いと考え、前夜祭担当を執行部から除外した。

### 【執行部の再定義とそれぞれの役割について】

#### 執行部の定義

三田祭本祭において、「三田祭の運営に必要な不可欠な部署責任者の集まり」

#### 各執行部それぞれの役割

- 委員長→委員会内のあらゆる決定に対して責任を持ち、全体を取りまとめる
- 財務局長→財務管理をする部局の代表
- 総務局長→大学との様々な調整等を行う部局の代表
- 一般企画局長→三田祭出展団体を取り扱う部局の代表
- 広報宣伝局長→三田祭の広報を担う部局の代表
- 本部企画局長→本部企画を立案・実行する部局の代表
- 渉外局長→企業協賛等により、運営資金を集める部局の代表
- 電力管制部長→本祭中の使用電力を管理する部局の代表
- 前夜祭担当→あくまで前夜祭の企画責任者であり、三田祭本祭において必要不可欠な役割はない

## C.委員会内の情報共有に関して

---

### [問題点]

各執行部同士・委員と執行部間での情報共有が不十分であった



各執行部間・委員と執行部間の情報共有不足により、円滑な組織運営が滞っていた一面もあり、第 62 回前夜祭の赤字原因の一つともなった。

※以上の問題点を受け、組織内で取った対応（今後も含む）

より効率的かつ、円滑な組織運営のために徹底した情報共有が必要になる。具体的な施策に関しては、以下に列挙する。

- ①定例の執行部会議だけでなく、slack 等を導入して、必要に応じてその都度情報の共有を行う。（各執行部間）
- ②執行部だけでなく、委員にも slack に参加してもらい、各々が必要に応じて情報を把握できる体制を整える。（委員と執行部間）
- ③月に一度の全体会議における、各部署からの情報の共有を徹底する。
- ④上記の全体会議だけでなく、必要に応じて zoom などのリアルタイムでの説明会、質問会等を行い、情報の共有になるべく時差が出ないようにする

上記のように様々な工夫を行い、徹底した情報共有を目指します。

## D.第 63 回三田祭実行委員会における収入計画

収入については現状、オフライン開催における収益獲得計画を進めている。  
以下に示すものはオフライン開催想定収益獲得計画である。

協賛方法		見込み金額
広告	お名刺広告	¥400,000
	広告	¥4,000,000
福引		¥3,000,000
界限		¥300,000
企画		¥150,000
その他	アプリ協賛	¥1,000,000
	OBOG 協賛	¥2,500,000
		合計：¥11,350,000

¥11,350,000 の収入の実現可能性については、二つの理由からある程度妥当性が担保されている。一つは歴代の渉外収入の変遷である。第54回三田祭より、渉外協賛収入は700万～900万円を推移しており、今年度もオフライン開催を実施した場合に同程度の収入が見込まれる。これに加え、第62回よりOBOG協賛の導入を行い、約200万円の新たな収入先を確保した。二つ目は、協賛獲得に向けた新規企画の立案である。以下が第63回三田祭において実施を進めている企画である。これらは、初期費用はほとんどかからずに協賛収入拡大を実施できるものとなっており、既存の福引企画、広告活動、学生協賛に付随する形でそれらの協賛収入の増加を促進することを目的としている。

企画名	企画概要
ダブルチャンス抽選会	福引を2本買うことで、参加できる抽選会企画。福引の本数を複数本買うフックとなる。
就活関連の学生協賛	既存のアプリ協賛に加え、就活に関連した協賛の実施。
A3 コラボ	ゲームアプリとのコラボによる広告協賛。
早慶 or 企業コラボ	早慶や企業とのコラボによる広告協賛。
おみくじ	福引に付随して販売する。
いい写格蘭プリ	福引購入者の写真投稿を集める企画。その中から格蘭プリを決める。
出張福引	三田界限のイベントに福引で参加し、界限地域との関係構築を行う。
CLOUDY	アパレルとのコラボのグッズ販売。
ヤマトサブスク	福引の配送費のコスト削減のために、ヤマト運輸の配送のサブスクを利用する。

## E.第 63 回三田祭実行委員会における支出削減計画

第 63 回三田祭の開催形態は通常のオフライン開催、オンライン開催の両者が想定される。以下それぞれの開催形態において、例年の支出から削減する項目を列挙する。削減金額は、オフライン・オンライン開催共に第 61 回三田祭を基準とし、そこからの削減した金額を示している。

※ここでのオンライン開催とはステージを設営せずに開催する場合のオンライン開催を指す。

### 【オフライン開催削減項目】 ※はオンライン開催共通項目

支出品目	削減金額	詳細
電力費※	¥1,630,000	電力量に応じて電力工事が発生するため、三田祭実行委員会企画の企画場所の制限や電力使用量の制限を行い、最大電力を抑えることで可能。 この金額の削減であれば、参加団体の出展に制限がかかることはない。
ソフト代※	¥520,000	三田祭実行委員が使用するデザイン編集ソフト代。個人の所有物になるため、自費負担に切り替え。
お弁当代※	¥1,970,000	本祭中の委員の食事代についても自費負担に切り替え。
備品費※	¥710,000	コロナ禍でルーム使用が減ったことを踏まえ、コピー用紙・文房具等の購入を削減。
運搬費※	未定	レンタル期間を短くする。駐車場をキャンパスから離れたところにする ことで費用削減可能。
印刷費※	未定	コロナ禍を踏まえ、資料の電子化を推進。
音響サービスへの飲食代※	¥60,000	放送研究会さんが秋頃に三田祭の準備活動を行う日の飲食代の負担について、事前の予算決定の時点で相談。
企画費	¥2,800,000	渉外企画は福引に関連する企画のみ実施。本部企画局・1 年企画では予算を各企画半額に。パンフレットは採算が取れる見積もりが出るまで除外。参加団体配布用スタッフマニュアルは利便性も考え、電子化。
ステージ費(第 62 回と同様の簡易ステージ)	¥600,000	高さがないステージを設営した場合。高さを低く設置した場合もさらに料金が変動。

### 【オンライン開催項目】

支出品目	削減金額	詳細
企画費	¥3,810,000	オフライン開催から本部企画の各予算減額、企画数を減らす。
ステージ費(ステージを設営しない場合)	¥4,600,000	

## おわりに

---

第 62 回三田祭前夜祭におけるこの度の報告において、多くの三田祭関係者の方々にご心配等をおかけしましたこと、改めて謝罪させていただきます。

今後三田祭実行委員会はこれまで以上に組織内外にしっかりと目を向け、より良い三田祭運営のために精進して参りますので、どうかご協力の程よろしく願います。

加えて、繰り返しになりますが、この度の損失は三田祭実行委員会が主として企業協賛等で独自に獲得したお金の貯蓄分から補填したものであり、塾生の方々から集めた交付金による補填は行っておりません。また、三田祭本祭を開催するにあたって必要な金額は参加団体様からの振り込みによる費用で賄っております。そのため、三田祭実行委員会の独自財源の繰越金は減額したものの、三田祭本祭の開催に対して基本的に影響はございません。それらの点をご理解いただけますと幸いです。

今後とも三田祭実行委員会をよろしく願います。